

【晉紀二十二】 起旃蒙單閼，盡屠維協洽，凡五年。

■東晉、▲前燕、（続国訳漢文大成 經子史部 第 6 卷 159p）

孝宗穆皇帝中之下永和十一年（乙卯，355 年）

■【仇池の楊國立つ】春，正月，故の仇池公の楊毅の弟の宋奴は其の姑の子の梁式王をして楊初を刺殺せしむ。初の子の國は式王及び宋奴を誅し，自ら立って仇池公と為る。桓溫は國を表して鎮北將軍、秦州刺史と為す。

前秦二月，秦は大いに蝗あり，百草遺る無く，牛馬は相い毛を噉う。

▲【慕容雋は和龍より薊に帰還】夏，四月，燕王の雋は和龍（旧龍城、現・朝陽市、前年前巻に行く記事あり）より薊（現・北京市大興区）に還る。是より先，幽、冀之人は雋を以て東遷すと為し，互いに相い驚擾し，所在は屯結す。群臣は之を討たんと請い，雋は曰く、

「群小は朕が東巡するを以て，故に相い惑いて亂を為す耳。今朕は既に至り，尋いで當に自ら定まらん，討つに足らざる也。」（6-160p）

■▲【晉秦太守五人が燕に降る】蘭陵太守の孫黑、濟北太守の高柱、建興太守の高甕及び秦の河内太守の王會、黎陽太守の韓高は皆な郡を以て燕に降る。

前秦【前秦の苻生は粗暴】秦の淮南王の生は幼くして一目無く，性は粗暴なり。其の祖父の洪は嘗て之に戯れて曰く、

「吾は聞く瞎（一眼が盲すること）兒は一涙なりと，信なる乎？」

生は怒り，佩刀を引いて自ら刺して出血して，曰く、

「此も亦た一涙也。」

洪は大いに驚いて，之を鞭つ。生は曰く、

「性は刀槊に耐え，鞭極に堪えず！」

洪は其の父の健に謂って曰く、

「此の兒は狂悖にして，宜しく早く之を除くべし。然らずんば，必らず人の家を破らん。」

健は將に之を殺さんとし，健の弟の雄は之を止めて曰く、

「兒は長ずれば自ら應に改まらん，何の遽に爾とす可からんや！」

長ずるに及び，力は千鈞を舉げ，手は猛獸を格ち，走りて奔馬に及び，擊刺（擊劍）騎射は，一時に冠絶す。

獻哀太子（前秦の太子苻萇の諡）の卒するや，彊后は少子の晉王の柳を立てんと欲す。秦主の健は讖文に「三羊五眼」有るを以て，乃ち生を立てて太子と為す。司空、平昌王の菁を以て太尉と為し，尚書令の王墮を司空と為し，司隸校尉の梁楞を尚書令と為す。

前秦■【姚襄は許昌に進出】姚襄の所部は多く襄に北に還るを勧め，襄は之に従う。五月，襄は冠軍將軍の高季を外黃（漢以来陳留郡に属する県、河南省開封道杞県、現・開封市杞県）に攻め，會々季は卒し，襄は進みて許昌に據る。

【苻健死して遺言して苻生立つ】

前秦【苻健の病に乗じて苻菁の乱、鎮圧】六月，丙子（6 日），秦主の健は疾に寝る。庚辰（10 日），平昌

王の**菁**は兵を勅して東宮に入り、將に太子の**生**を殺して而して自ら立たんとす。時に**生**は疾に西宮（秦主の居所）に侍し、**菁**は以為らく**健**は已に卒すとし、東掖門を攻める。**健**は變を聞き、端門に登り、兵を陳して自衛す。衆は**健**を見て、惶懼し、皆な仗を捨てて逃散す。**健**は**菁**を執り、數めて而して之を殺し、餘は問う所無し。壬午（12日）、大司馬、武都王の**安**を以て都督中外諸軍事とす。甲申（14日）、**健**は太師の**魚遵**、丞相の**雷弱兒**、太傅の**毛貴**、司空の**王墮**、尚書令の**梁楞**、左僕射の**梁安**、右僕射の**段純**、吏部尚書の**辛牢**等を引いて遺詔を受けて政を輔けしむ。**健**は太子の**生**に謂って曰く、

「六夷の曾師及び大臣の權を執る者は、若し汝が命に従わざれば、宜しく漸く之を除くべし。」

前秦**[苻健の遺言は理に合わない]**臣**光**は曰く、顧命の大臣は、嗣子を輔導し、之が羽翼と為す所以也。之が羽翼と為し而して教えて之を剪ら使むるは、能く斃れる無からん乎！其の不忠を知ればなり。則ち任ずる勿からん而して已む矣。任ずるに大柄を以てし、又た從いて而して之を猜^{うたが}えば、亂を召かざる有る者鮮^{すくな}し也。

前秦**[苻健は卒し生立つ、段純誅殺]**乙酉（15日）、**健**は卒し、謚して**景明皇帝**と曰い、廟號を**高祖**とす。丙戌（16日）、太子の**生**（苻健の第三子、字は長生）は即位し、大赦し、改元して**壽光**とす。群臣は奏して曰く、

「未だ年を逾えず而して改元するは、非禮也。」（古禮に、君薨じ世子位に即きの既に年を踰えて而る後に元年と称す）

生は怒り、議主（發起人）を窮推し、右僕射の**段純**を得、之を殺す。(6-161p)

■**秋、七月**、吏部尚書の**周閔**を以て左僕射と為す。

■**[會稽王昱は武陵王を疑わず]**或るは會稽王の**昱**に告げて曰く、

「**武陵王**（暕）の第中は大いに器仗を修め、將に非常を謀らんとす。」

昱は以て太常の王**彪之**に告げ、**彪之**は曰く、

「**武陵王**之志は、畋獵に馳騁（馬を走らす）するに盡き而して已む耳、深く願わくは、之を靜かにし、以て異同之論（様々な世間の評判）を安んずるべし、復た以て言を為す勿かれ！」

昱は之を善しとす。

前秦秦主の**生**は母の**彊氏**を尊んで**皇太后**と曰い、妃の**梁氏**を立てて**皇后**と為す。**梁氏**は、**安**之女也。其の嬖臣の太子門大夫の**南安**の**趙韶**を以て右僕射と為し、太子の舍人の**趙誨**を中護軍と為し、著作郎の**董榮**を尚書と為す。

前涼**[涼王の祚を巡る乱戦]**涼王の**祚**は淫虐無道にして、上下は怨憤す。**祚**は河州（張駿が枹罕に置く）刺史の**張瓘**之の強きを惡み、張掖太守の**索孚**を遣わして**瓘**に代わりて枹罕を守らしめ、**瓘**をして叛胡を討た使む。又た其の將の**易揣**、**張琚**を遣わして歩騎萬三千を帥いて以て**瓘**を襲わしむ。張掖人の王**鸞**は術數を知り、**祚**に言って曰く、

「此の軍出でれば、必ず還らず、涼國は將に危ならんとす。」

並せて**祚**の三つの不道を陳ず。**祚**は大いに怒り、**鸞**を以て妖言すと為し、斬りて以て^{とな}殉える。**鸞**は刑に臨みて曰く、

「我死せば、軍は外に敗れ、王は内に死すこと、必ず矣！」

祚の族は之を滅する。**瓘**は之を聞き、**孚**を斬り、兵を起こして**祚**を撃ち、檄を州郡に傳え、**祚**を廢し、侯を以て第に還らしめ、復た涼寧侯の**曜靈**（前卷前年に廢せらる）を立てんとす。**易揣**、**張琚**の軍は始めて河を濟るや、**瓘**は撃ちて之を破る。**揣**等は單騎にして奔り還り、**瓘**の軍は之を躡み、姑臧は振り恐れる。驍騎

將軍の敦煌の宋混の兄の修は、祚と隙有り、禍いを懼れる。八月、混は弟の澄と與に西に走り、衆萬餘人を合わせて以て璫に應じ、還りて姑臧に向かう。祚は楊秋胡を遣わして曜靈を東苑に將いて、其の腰を拉きて而して之を殺し、沙坑に埋め、謚して哀公と曰う。

前秦〔苻生の体制の不安定、趙俱の憂卒〕秦主の生は衛大將軍の黃眉を封じて廣平王と為し、前將軍の飛を新興王と為し、皆な素より善き所也。大司馬の武都王の安（苻健は没するに中外諸軍を督させるもいまだ蒲阪に在り）を征して太尉を領せしむ。晉王の柳を以て征東大將軍、并州牧と為し、蒲阪に鎮ぜしむ。魏王の廋を鎮東大將軍、豫州牧と為し、陝城に鎮ぜしむ。中書監の胡文、中書令の王魚は生に言つて曰く、

「比このごろ星有り大角（星座の名）に孛し、熒惑は東井に入る。大角は、帝の坐、東井は、秦の分（野）なり。占に於いて三年を出ずして、國に大喪有り、大臣は戮死せん。願はくは陛下は德を修めて以て之を禳えるべし！」

生は曰く、

「皇后は朕と與に天下に對臨す、以て大喪に應ず可し矣。毛太傅、梁車騎、梁僕射は遺を受けて政を輔ける、以て大臣に應ず可し矣。」

九月、生は梁后及び毛貴、梁楞、梁安を殺す。貴は、后之舅也。右僕射の趙韶、中護軍の趙誨は、皆な洛州刺史の俱之從弟也、生に寵有り、乃ち俱（趙俱は宜陽に鎮するは前卷前年にあり）を以て尚書令と為す。俱は疾を以て固辭し、韶、誨に謂つて曰く、

「汝等は復た祖宗を顧ず、(6-162p) 滅門（一族滅亡）之事を為さんと欲するか！毛、梁に何の罪ありてか、而して之を誅するや？吾に何の功ありてか、而して之に代えるや？汝等は自ら為す可し、吾は其れ死せん矣！」

遂に憂を以て卒す。

【前涼では張玄靚を擁立】

前涼〔涼王の祚は宋混に攻められ誅殺、玄靚立つ〕涼の宋混は武始（張駿は狄道県を分けて武始郡を立てる、大澤は猪野澤、甘肅省甘涼道鎮番県の東北蒙古阿拉善旗の境内、現・武威市民勤県）の大澤に軍し、曜靈の為に哀を發す。閏月（統は六月とするが、元嘉曆では十月が閏月）、混の軍は姑臧に至り、涼王の祚は張璫の弟の琚及び子の嵩を収めて、將に之を殺さんとす。琚、嵩は之を聞き、市人の數百を募りて、揚言す、

「張祚は無道にして、我が兄の大軍は已に城東に至り、敢て手を舉げる者は三族を誅せん！」

遂に西門を開いて混の兵を納める。領軍將軍の趙長（張祚を立てようとしたので）等は罪を懼れ、閤に入りて張重華の母の馬氏を呼びて殿を出で、涼武侯の玄靚を立てて主と為す。易揣等は兵を引いて殿に入り、長等を収め、之を殺す。祚は劍を殿上に按じ、大呼して、左右を叱して力戦す。祚は素より衆心を失い、肯えて之が為に闘う者莫し、遂に兵人の殺す所と為る。混等は其の首を梟し、内外に宣示し、屍を道左に暴し、城内は咸な萬歲を稱す。庶人の禮を以て之を葬し、并せて其の二子を殺す。混、琚は玄靚を上して大將軍、涼州牧、西平公と為し、境内に赦し、復た建興四十三年と稱す。時に玄靚は始めて七歳なり。

前涼〔張璫は姑臧支配、隴西人の李儼は自立〕張璫は姑臧に至り、玄靚を推して涼王と為し、自ら使持節、都督中外諸軍事、尚書令、涼州牧、張掖郡公と為し、宋混を以て尚書僕射と為す。隴西人の李儼は郡に據りて、璫の命を受けず、江東の年號（晉の年号、永和）を用いて、衆は多く之に歸す。璫は其の將の牛霸を遣わして之を討たしむ、至らず、西平人の衛鞏は亦た郡に據りて叛し、霸の兵は潰え、奔りて還る。璫

は弟の瑒を遣わして緄を撃たしめ、之を敗る。酒泉太守の馬基は兵を起こして以て緄に應じ、璿は司馬の張姚、王國を遣わして撃ちて之を斬る。

■冬，十月，豫州刺史の謝尚を以て并、冀、幽三州（時に江左、則ち東晋は青冀并幽の四州を僑立）を督し，壽春に鎮ぜしむ。

■▲[前燕は段龕を撃つ] 鎮北將軍の段龕は燕主の僞に書を與えて，中表之儀（僞は段氏の出で段龕は争う）を抗し，其の帝を稱するを非とする。僞は怒り，十一月，太原王の恪を以て大都督と為し、撫軍將軍の陽騫を之の副として，以て龕を撃つ。

前秦 秦は辛牢を以て尚書令を守らしめ，趙韶を左僕射と為し，尚書の董榮を右僕射と為し，中護軍の趙誨を司隸校尉と為す。

▲[高句麗] [高句麗王釗は慕容僞に母の送還を請う] 十二月，高句麗王の釗は遣使して燕に詣り質を納め貢を修め，以て其の母（97 卷成帝咸安八年に見える、質となる）を請う。燕主の僞は之を許し，殿中將軍の刁韞を遣わして釗の母の周氏を送りて其の國に歸す。釗を以て征東大將軍、營州刺史と為し，樂浪公に封じ，王は故の如し。

■▲上黨人の馮騫^{ふうおう}は燕の太守の段剛を逐い，安民城（山西省冀寧道襄垣県、現・長治市襄垣県）に據り，自ら太守を稱し，遣使して來降す。（6-163p）

前秦 [秦の苻生は殘虐にして離心甚だし] 秦の丞相の雷弱兒は性は剛直にして，趙韶、董榮が政を亂すを以て，毎に朝に於いて公言し，之を見て常に切齒す。韶、榮は之を秦主の生に譖り，生は弱兒及び其の九子、二十七孫を殺す。是に於いて諸羌は皆な離心有り。（雷弱兒は冉安羌の首、罪なきを以て離心す）生は諒陰（服喪期間）なりと雖も，游飲すること自若なり，弓を彎き刃を露わにして，以て朝臣を見る。錘鉗鋸鑿（重り・首輪・のこ・のみ），人を害する可き之具を以て，備えて左右に置く。即位して未だ幾くならず，后妃、公卿已下僕隸に至るまで，凡そ五百餘人を殺し，脛を截ち、脅を拉き、項を鋸し、胎を剝らるる者は，之に比す有り。

▲[段龕は弟の熙の作戰に従わず] 燕主の僞は段龕が方に強きを以て，太原王の恪に謂って曰く、「若し龕が軍を遣わして河を拒ぎ，渡るを得ざる者は，直ちに呂護（時に夏王に據る）を取りて而して還る可し。」

恪は輕軍を分遣して先ず河上に至り，舟楫を具え以て龕の志趣を觀る。龕の弟の熙は，驍勇にして智謀有り，龕に言つて曰く、

「慕容恪は善く兵を用い，之に加えて衆は盛んなり，若し其の河を濟るを聽し，進みて城下に至れば，恐らくは降るを乞うと雖も，得る可からざる也。請う兄は固守し，熙は精銳を帥いて之を河に拒まん，幸にも而して戰捷すれば，兄は大衆を帥いて之に繼げ，必ず大功有り。若し其の捷たざれば，早く降るに若かず，猶ほ千戸侯^{ちやう}爲るを失わざる也。」

龕は從わず。熙は固く請いて已まず，龕は怒り，之を殺す。

孝宗穆皇帝中之下永和十二年（丙辰，356年）

▲ 〔段龕は慕容恪に大敗し、城を囲まれる〕 春、正月、燕の太原王の恪は兵を引いて河を濟り、未だ廣固（山東省膠東道益都県、現・濰坊市青州市）に至らざること百餘里、段龕は衆三萬を帥いて逆え戦う。丙申（30日）、恪は龕を淄水に大いに破り、其の弟の欽を執り、右長史の袁范等を斬る。齊の王龍（段龕は齊王を名乗り、官を置く、続は王友）の辟閭蔚は創を被り、恪は其の賢を聞き、人を遣わして之を求めるも、蔚は已に死し、士卒の降る者は數千人。龕は脱走し、城に還りて固く守り、恪は進軍して之を圍む。

前秦 〔秦司空の王墮は天變の生贄として誅殺〕 秦の司空の王墮は性は剛峻なり、右僕射の董榮、侍中の強國は皆な佞幸を以て進み、墮は之を疾んで仇の如し。毎朝、榮を見て未だ嘗て之と言わず。或は墮に謂って曰く、

「董君は貴幸にして比無し、公は宜しく小しく意を降して之に接すべし。」

墮は曰く、

「董龍（董榮の小子）は是れ何の雞狗ぞ、而るに國土をして之と言わ令むる乎！」

會々天變有り、榮は強國と秦主の生に言って曰く、

「今天譴（天罰）は甚だ重し、宜しく貴臣を以て之に應じるべし。」（天への生贄にしるの意味）

生は曰く、

「貴臣は唯だ大司馬（武都王安）及び司空有る耳。」

榮、國は曰く：

「大司馬は國之懿親なり、殺す可からざる也。」

乃ち王墮を殺す。將に刑せんとし、榮は之に謂って曰く、

「今日復た敢て董龍を雞狗に比する乎？」

墮は目を瞋らして之を叱す。洛州刺史の杜郁は、墮之甥也、左僕射の趙韶は之を惡み、生に譖り、以て晉に貳ありと為し而して之を殺す。

前秦 〔宴会の狂乱、尚書令の辛牢の誅殺〕 壬戌（二月なら26日？）、生は群臣と太極殿に宴し、尚書令の辛牢を以て酒監と為し、酒^{たけなわ}酣にして、生は怒りて曰く、（6-164p）

「何ぞ人に酒を強いずして而して猶ほ坐する者有るや！」

弓を引いて牢を射て、之を殺す。群臣は懼れ、敢えて酔わざるもの莫く、偃仆して冠を失い、生は乃ち悦ぶ。

代 〔匈奴と代の確執〕 匈奴の大人の劉務桓は卒し、弟の閼頭は立ち、將に代に貳（二心を持つ、背く）ならんとす。二月、代王の什翼犍は兵を引いて西を巡り、河に臨み、閼頭は懼れ、降を請う。

▲ 〔徐州刺史王騰は燕に降る〕 燕の太原王の恪は段龕の諸城を招撫す。己丑（53日？）、龕の署する所の徐州刺史の陽都公の王騰は衆を擧げて降り、恪は騰に命じて故職を以て還りて陽都（県名、山東省濟寧道沂水県の南、現・臨沂市沂水県）に屯ぜしむ。

【前涼は前秦に稱藩】

前秦 〔秦は前涼を恫喝して稱藩させる〕 秦の征東大將軍の晉王の柳は參軍の閭負、梁殊を遣わして涼に使いせしめ、書を以て涼王の玄靚を説く。負、殊は姑臧に至り、張璠は之を見て、曰く、

「我は、晉の臣也。臣は境外之交わり無く、二君は何を以てか來たりて^{かたじけな}辱くするや？」

負、殊は曰く、

「**晉王**は君と鄰籓なり、山河は阻絶すると雖も、風は通じ道は會し、故に來たりて好みを修める、君は何をか焉を怪しむや！」

瓘は曰く、

「吾は忠を盡くして晉に事えること、今に於いて六世（祚以外の六君）矣。若し**苻征東**（苻柳）と使いを通じれば、是れ上は先君之志に違ひ、下は士民之節を隳る、其れ可ならん乎！」

負、殊は曰く、

「晉室は衰微し、天命を墜失して、固に已に久し矣。是を以て涼之二王が二趙（張茂は前趙に、張駿は後趙に称藩）に北面するは、唯だ機を知る也。今大秦の威徳は方に盛んにして、**涼王**が若し自ら河右に帝たらんと欲すれば、則ち秦之敵に非ず。小を以て大に事えんと欲すれば、則ち曷ぞ晉を捨てて秦に事え、以て福祿を保つに若かん乎！」

瓘は曰く、

「中州は食言を好み、向者に**石氏**は使車適に返り（永和二年張重華は位を嗣ぎ使いを遣わして章を石虎に奉ず。虎は繼いで王擢を遣わして來たりて寇せしむ）、而して戎騎は已に至る、吾は敢えて信じざる也。」

負、殊曰、

「古より**帝王**の中州に居る者は、政化は各々殊なり、趙は奸詐を為し、秦は信義に敦し、豈に一概に之を待つを得ん乎！**張先、楊初**は皆な兵を阻みて服せず、**先帝**は討ちて而して之を擒とし（張先を擒とするは98卷永和六年にあり。楊初は擒とせず）、其の罪戾（罪惡）を赦し、寵するに爵秩を以てし、固より**石氏**之比に非らず。」

瓘は曰く、

「必ず君の言が如くして、秦之威徳に敵無ければ、何の先ず江南を取らざるや、則ち天下は盡く秦の有と為らん、征東は何ぞ命を焉に辱くするや！」

負、殊曰、

「江南は文身之俗（魏志倭人伝にもあるように、文身・入れ墨は呉のものとなされていた、江南は所謂刑蠻の地で、土俗は断髪入れ墨で中華文化と隔絶していたので、古俗を引いて侮る。ただし東晋の実情ではない）にして、道は汚れば先ず叛き、化隆んなれば後れて服すべし。**主上**は以為らく江南は必ず須く兵をもって服すべしと、河右は義を以て懷ける可しと、故に行人（使者）を遣わして先ず大好を申せしむ。若し君が天命に達せざれば、則ち江南は數年之命を延べることを得る、**(6-165p)** 而して河右は恐らくは君之土に非ざる也」。

瓘は曰く、

「我は三州（涼州・河州・沙州）に跨がり據り、帶甲は十萬、西は蔥嶺（パミール高原）を苞ね、東は大河に距り、人を伐りて餘り有り、況んや自ら守るに於いてをや、何の秦を畏れんや！」

負、殊は曰く、

「貴州の山河之固めは、**穀**（まじる）、函に孰若れぞ？民物之饒かなるは、秦、雍の孰若れぞ？**杜洪、張琚**（98卷永和六年にあり）は、**趙氏**の成資に因りて、兵は強く財は富み、關中を囊括し、四海を席捲する之志有り、**先帝**の戎旗が西を指させば、冰のごとく消え雲のごとく散り、旬月之間には、覺えず主を易える。**主上**が若し貴州の服せざるを以て、赫然として奮怒し、控弦は百萬、鼓行して而して西せば、未だ知らず貴州の將に何を以てか之を待つや？」（露骨な脅迫）

瓘は笑いて曰く、

「茲の事は當に之を**王**に決すべし、身の了（決）する所に非らず。」

負、殊は曰く、

「涼王は英睿夙成と雖も、然るに年は幼沖に在り、君は伊、霍（伊尹・霍光）之任に居り、國家の安危は、君の一舉に系かる耳。」

璿は懼れ、乃ち玄靚之命を以て遣使して秦に稱籙し、秦は玄靚の稱する所の官爵に因りて而して之を授ける。

【苻生の虐殺止まず】

■**前秦**▲**〔前燕は前秦に侵入〕**將軍の劉度は秦の青州刺史の王朗を盧氏（河南省河洛道盧氏県、現・三門峽市盧氏県）に攻める。燕の將軍の慕容廆は軹關に入り、秦の幽州刺史の強哲を裴氏堡（山西省河東道聞喜県、現・運城市聞喜県）に攻める。秦主の生は前將軍の新興王の飛を遣わして度を拒ましめ、建節將軍の鄧羌をして長卿を拒ましむ。飛は未だ至らず而して度は退く。羌は長卿と戦い、大いに之を破り、長卿及び甲首二千餘級を獲る。

■**〔桓溫の洛陽遷都策を入れず〕**桓溫は都を洛陽に移し、園陵を修復するを請い、章は十餘たびも上るも、許さず。溫を拜して征討大都督、督司、冀二州諸軍事とし、以て姚襄を討たしむ。

前秦 **〔苻生は諫める程肱を誅殺〕** **三月**、秦主の生は三輔の民を發して渭橋を治める。金紫光祿大夫の程肱は諫め、以て農を妨げると為す、生は之を殺す。

前秦 **〔苻生は天災で諫める彊平も誅殺〕** **夏、四月**、長安に大風ふき、屋を發き木を抜く。秦の宮中は驚擾し、或は賊至ると稱し、宮門は晝も閉まり、五日にして乃ち止む。秦主の生は賊を告げる者を推（尋問）し、其の心を剝り出す。左光祿大夫の彊平は諫めて曰く、

「天は災異を降す、陛下は當に民を愛して神に事え、刑を緩めて德を崇び以て之に應ずべし、乃ち弭む可き也。」

生は怒り、其の頂きを鑿ちて而して之を殺す。衛將軍の廣平王の黃眉、前將軍の新興王の飛、建節將軍の鄧羌は、平は、太后之弟なるを以て、叩頭して固く諫めるも、生は聽かず、黃眉を出して左馮翊と為し、飛を右扶風と為し、羌を咸陽太守に行かしむ、猶ほ其の驍勇を惜しみ、故に皆な殺さず。**五月**、太后の彊氏は憂恨を以て卒し、諡して明德と曰う。

姚襄 姚襄は許昌より周成（前卷十年に洛陽に拠す）を洛陽に攻める。（周成は354年1月～356年8月洛陽支配）

前秦 **〔苻生は殺すも千人に過ぎず、虎狼もはびこる〕** **六月**、秦主の生は下詔して曰く、

「朕は皇天之命を受け、萬邦に君臨す。統を嗣ぎて以來、(6-166p) 何の不善有りてか、而して謗讟之音、天下に扇滿するや！殺すも千に過ぎず、而して之を謂うに殘虐とす！行く者は肩を比べ、未だ希なりと為すに足りず。方に當に刑を峻にして罰を極めるべし、復た朕を如何せんや！」

去春より以來、潼關之西は、長安に至るまで、虎狼は暴を為す。晝は則ち道に繼（一本には斷）ぎ、夜は則ち屋を發き、六畜を食らわず、専ら人を食らうに務め、凡そ七百餘人を殺す。民は耕桑を廢し、相い聚まりて邑居し、而して害を為すこと息まず。**秋、七月**、秦の群臣は奏して災を禳うを請い、生は曰く、

「野獸は饑えて則ち人を食らう、飽きれば當ち自ら止む、何の禳うこと之れ有らん！且つ天は豈に民を愛さざらん哉、正に罪を犯す者多きを以て、故に朕を助けて之を殺す耳！」

▲丙子（12日）、燕の獻懷太子の曄は卒す。

【姚襄と桓溫の洛陽攻防戦】

姚襄 ■ **〔姚襄は洛陽を落とせず〕** 姚襄は洛陽を攻め、月を逾えて克たず。長史の王亮は諫めて曰く、

「明公の英名は世を蓋^{おお}い、兵は強く民は附く。今兵を堅城之下に屯し、力屈して威挫けば、或いは它寇の乗ずる所と為らん、此くは危亡之道也！」

襄は従わず。(洛陽は前秦、前燕、東晋の三者の争奪の場となる)

■ 【桓温は江陵より北伐】桓温は江陵より北伐し、督護の高武を遣わして魯陽に據らしめ、輔國將軍の戴施をして河上に屯せしめ、自ら大兵を帥いて繼いで進む。寮屬と與に平乘樓(大船の樓)に登りて中原を望み、歎じて曰く、

「遂に神州をして陸沉^{ちん}せ使め、百年丘墟たらしめ、王夷甫諸人は其の責めに任ぜざるを得ず！」(王衍などが清談に興じて王事を憂えずに遂に夷狄が中国を乱す)

記室(諸侯の府の表疏激の作文係)の陳郡の袁宏は曰く、

「運に興廢有り、豈に必ずしも諸人之過ちなるや！」

温は色を作^なして曰く、

「昔劉景升(劉表の字、牛を宏の徒に譬え、よく俸禄を費やすとも經世の用無し)には千斤の大牛有り、芻豆を啖らうに常牛に十倍し、重きを負いて遠きを致すことは、曾^{すなわ}ち一羸牴(一頭の疲れ弱る母牛)に若かず、魏武(曹操)は荊州に入り、殺して以て軍を享(有り難く受け取る)す。」

■ 【桓温は姚襄を破るも、姚襄を慕う者多く逃走成功】八月、己亥(6日)、温は伊水(洛陽の南)に至り、姚襄は圍みを撤して之を拒み、精銳を水北の林中に匿し、遣使して温に謂って曰く、

「親ら王師を帥いて以て來たるを承り、襄は今身を奉じて命に歸せん、願わくは三軍に敕^{しりぞ}して小さく卻かしめよ、當に路左に拜伏すべし。」

温は曰く、

「我は自ら中原を開復し、山陵に展敬(参拝)す、君の事に豫かる無し。來たらんと欲する者は便ち前め、相い見えんこと近きに在り、何をか使人を煩わさん！」

襄は水に拒^{ふせ}ぎて而して戦う。温は陳を結びて而して前^{すす}み、親ら甲を被りて督戦す。襄の衆は大いに敗れ、死者は數千人。襄は麾下の數千騎を帥いて洛陽の北山(北芒山)に奔り、其の夜、民の妻子を棄てて襄に隨う者は五千餘人。襄は勇に而して人を愛し、戦いて屢々敗れると雖も、民は襄の在る所を知り、輒ち老を扶け幼を攜^{たずさ}えて、奔馳し而して之に赴く。温の軍中には傳言す、
「襄は創を病みて已に死す」

と。許、洛の士女は温の得る所と為る者は、北を望みて而して泣かざる無し。襄は西に走り、温は之を追いて及ばず。弘農の楊亮は襄の所より來奔し、温は襄之人と為りを問う、亮は曰く、(6-167p)

「襄は神明にして器宇(度量)は、孫策之儔^{ともがら}にして、而して雄武は之に過ぎたり。」

■ 【桓温の洛陽占領】周成は衆を帥いて出で降り、温は故の太極殿の前に屯し、既に而して徙りて金墉城に屯す。己丑(九月なら26日)、諸陵を謁し、毀壞する者有れば之を修復し、各々陵令(漢に倣う)を置く。鎮西將軍の謝尚を表して都督司州諸軍事とし、洛陽に鎮ぜしむ。尚は未だ至らざるを以て、潁川太守の毛穆之、督護の陳午、河南太守の戴施を留めて二千人を以て洛陽に戍せしめ、山陵を衛り、降軍三千餘家を江、漢之間に徙し、周成を執り以て歸る。(その後の周成の行方は知らず)

姚襄 【姚襄は平陽、襄陵に據る】姚襄は平陽(現・臨汾市堯都区)に奔り、秦の并州刺史の尹赤は復た(尹赤は襄に叛くこと前卷八年にあり)衆を以て襄に降り、襄は遂に襄陵(山西省河東道襄陵県、現・臨汾市襄汾県)に據る。秦の大將軍の張平は之を撃ち、襄は平の敗る所と為り、乃ち平と約して兄弟と為り、各々兵を罷める。

■▲【段龕救援に徐州刺史荀羨を派遣】段龕は其の屬の段蘊^{だんうん}を遣わして來たりて救いを求め、徐州刺史の荀羨に詔して兵を將いて蘊に隨いて之を救わしむ。羨は琅邪に至り、燕兵之強きを憚り、敢えて進まず。

王騰（段龕は王騰を署して徐州刺史と為し、陽都に屯せしめ、時に燕に降りて燕の為に來寇す）は鄆城（漢は東郡に屬し晉は濮陽に屬す、これは古の鄆城でなく僞県）を寇し、羨は進みて陽都を攻め、會々霖雨ありて、城は壞れ、騰を獲りて、之を斬る。

■冬，十月，癸巳（1日）朔，日之を食する有り。

前秦 【苻生は大医を殺す】秦主の生は夜に棗を食らうこと多く、旦に而して疾有り、太醫の令程延を召し、之を診せ使む。延は曰く、

「陛下は它の疾無し、棗を食らうこと多き耳。」

生は怒りて曰く、

「汝は聖人に非ず、安んぞ吾の棗を食らうを知らん！」

遂に之を斬る。

【慕容恪は段龕を降伏させる】

▲【慕容恪は段龕を廣固に圍む、人徳あり】燕の大司馬の恪は段龕を廣固に圍み、諸將は急に之を攻めるを請う。恪は曰く、

「用兵之勢いは、宜しく緩にする者有り、宜しく急にする者有り、察せざる可からず。若し彼我の勢いが敵すれば、外に強援有り、恐らくは腹背之患有らん、則ち之を攻めるに急がざる可からず。若し我が強く彼が弱ければ、援は外に無く、力は之を制するに足る者は、當に羈縻して之を守り、以て其の斃れるを待つべし。兵法に十なれば圍み五なれば攻めるべしと（孫子）、正に此れを謂う也。龕の兵は尚ほ衆く、未だ離心有らず。濟南之戦い（淄水の戦い、濟南とは濟水の南北の境界をいう）は、鋭ならざるに非ざる也、但だ龕は之を用いるに術無く、以て敗を取る耳。今堅城に憑阻し、上下は力を戮し、我は鋭を盡くして之を攻めれば、計るに數旬にして抜く可し、然れども吾が士卒を殺すこと必ず多からん矣。中原の有事より、兵は暫くも息まず、吾は毎に之を念い、夜は而して寐るを忘れる、奈何ぞ輕々しく其の死を用いる乎！要は之を取るに在り、必ずしも功之速やかなるを求めざる也！」

諸將は皆な曰く、

「及ぶ所に非ざる也。」

軍中は之を聞き、人人は感悅す。是に於いて高牆深塹^{つぼ}を為りて以て之を守る。齊人は争いて糧を運び以て燕軍に饋す。

▲【段龕は面縛して降参す】龕は城を嬰して自ら守り、(6-168p) 樵采の路は絶え、城中は人相い食らう。龕は衆を悉くして出でて戦う。恪は之を圍裡（城外の長圍の内側）に破り、先ず騎を分けて諸門に屯せしむ。龕は身自ら衝蕩し、僅かに而して入るを得、餘兵は皆な没す。是に於いて城中の氣は沮み、固き志有るもの莫し。十一月，丙子（14日），龕は面縛して出で降り、并せて朱秃（慕容鉤を殺して龕に奔るは前卷十年にあり）を執りて薊に送る。恪は新民を撫安し、悉く齊地を定め、鮮卑、胡、羯の三千餘戸を薊に徙す。燕主の雋は朱秃に五刑を具え、段龕を以て伏順將軍と為す。恪は慕容塵を留めて廣固に鎮ぜしめ、尚書左丞の鞠殷を以て東萊太守と為し、章武太守の鮮于亮を齊郡太守と為し、乃ち還る。

▲【鞠殷は鞠彭の忠告により東萊をよく治める】殷は、彭（鞠彭が東萊より燕に帰すこと 91 卷元帝大興二年にあり）之子也。彭は時に燕の大長秋^{ちやう}為り、書を以て殷を戒めて曰く、

「王彌、曹嶷は、必ず子孫有り、汝は善く招撫し、舊怨を尋いで、以て亂源を長じる勿かれ！」
殷は推求して、彌の従子の立、嶷の孫の巖を山中に得、請いて與に相い見て、深く意分を結ぶ。彭は復た遣使して遣るに車馬衣服を以てし、郡民は是に由りて大いに和す。

■ 【荀羨は退いて下邳に還る】 荀羨は段龕の已に敗れるを聞き、退きて下邳に還り、將軍の諸葛攸、高平太守の劉莊を留めて三千人を將いて琅邪を守らしむ。參軍の譙國の戴遂等をして二千人を將いて泰山を守らしむ。燕將の慕容蘭は汴城（俊儀城、河南省開封道開封県の西北、現・開封市祥符区。一説に卞城とし山東省濟寧道渭水県）に屯し、羨は撃ちて之を斬る。

■ 詔して兼司空、散騎常侍の車灌等を遣わして節を持して洛陽に如き、五陵（宣帝・景帝・文帝・武帝・景帝）を修めしむ。十二月，庚戌（19日），帝及び群臣は皆な緇（三月の喪服）を服し、太極殿に臨むこと三日。

■ 司州都督の謝尚は疾を以て行かず、丹陽尹の王胡之を以て之に代え、未だ行かずして而して卒す。胡之は、虞（王敦の従弟、89 卷愍帝建興三年のあり）之子也。

仇池 ■ 【仇池の楊俊は楊國を殺して自立】 是の歲、仇池公の楊國の從父の俊は國を殺して自立す。俊を以て仇池公と為し。國の子の安は秦に奔る。

孝宗穆皇帝中之下昇平元年（丁巳，357年）

■ 春，正月，壬戌（1日）朔，帝は元服を加える。太后は詔して政を歸し、大赦し、改元し、太后は徙りて崇德宮に居す。

▲ 【乙逸は乙璋の将来を憂える】 燕主の雋は幽州刺史の乙逸を征して左光祿大夫と為す。逸の夫婦は共に鹿車に載る。子の璋は數十騎を従え、服飾は甚だ麗しく、道に奉迎す。逸は大いに怒り、車を閉じて言を與えず。城（薊城、燕の都、乙逸を留務、幽州刺史は龍城）に到り、深く之を責め、璋は猶ほ^{あらた}悔めず。逸は常に其の敗れるを憂う。而るに璋は更に擢任を被り、中書令、御史中丞を歴る。逸は乃ち歎じて曰く、

「吾は少くして自ら修め立ち、已に克ちて道を守り、僅かに能く罪を免かれる。璋は節儉を治めず、専ら奢縦を為す、而も更に清顯に居る。此くは豈に唯だ璋之幸いを^{かたじけな}忝くする、(6-169p) 實に時世之陵夷する也。」

▲ 【慕容暉の立太子】 二月，癸丑（23日），燕主の雋は其の子の中山王の暉を立てて太子と為し、大赦し、改元して光壽とする。

前秦 太白は東井に入る。秦の有司は奏す、

「太白は罰星なり、東井は秦の分にして、必ず暴兵有りて京師に起こらん。」

秦主の生は曰く、

「太白は井に入り、自ら渴くが為耳、何の怪しむ所を乎！」

【關中を狙う姚襄敗死、姚萇は前秦に降る】

前秦 【姚襄は關中を占領せんと図る】 姚襄は將に關中を圖らんとし、夏，四月，北屈（山西省河東道吉県、現・臨汾市吉県）より進みて杏城（陝西省榆林道中部県、現・延安市黄陵県）に屯し、輔國將軍の姚蘭を遣わして地を敷城（陝西省榆林道鄜県、現・延安市富県）に略せしめ、曜武將軍の姚益生、左將軍の王欽盧は各々兵を將いて諸羌、胡を招き納める。蘭は、襄之從兄。益生、襄之兄也。羌、胡及び秦民の之に歸する者は五萬餘戸。秦將の苻飛龍は蘭を撃ちて、之を擒とす。襄は兵を引いて進みて黄落に據る。秦主の生は衛大將軍の廣平王の黄

眉、平北將軍の苻道、龍驤將軍の東海王の堅、建節將軍の鄧羌を遣わして歩騎萬五千を將いて以て之を御がしむ。襄は壁を堅くして戦わず。羌は黄眉に謂って曰く、

「襄は桓温、張平の敗る所と為り、銳氣は喪える矣。然るに其の人と為りは彊狠なりて、若し鼓噪して旗を揚げ、直ちに其の壘を壓えれば、彼は必ず忿恚し而して出で、一戦して擒となす可き也。」

前秦 **〔鄧羌は姚襄を迎撃して斬り、姚萇は降伏、黄眉謀反誅殺〕** 五月、羌は騎三千を帥いて其の壘門を壓して而して陳ず、襄は怒り、衆を悉くして出でて戦う。羌は陽りて勝たずし而して走り、襄は之を追ひ、三原（陝西省關中道三原県、現・咸陽市三原県）に至る。羌は騎を回して之を撃ち、黄眉等は大衆を以て繼いで至り、襄の兵は大いに敗れる。襄の乗る所の駿馬は鬣眉驕と曰い、馬は倒れ、秦兵は擒にして而して之を斬り、弟の萇は其の衆を帥いて降る。襄は其の父の弋仲之柩を載せて軍中に在り、秦主の生は王禮を以て弋仲を孤磐（甘肅省渭川道通渭県、現・定西市通渭県）に葬し、亦た公禮を以て襄を葬す。廣平王の黄眉等は長安に還り、生は之を賞せず、數々黄眉を衆辱す。黄眉は怒り、生を弑せんと謀る。發覺し、伏して誅す。事は王公親戚に連なり、死者は甚だ衆し。

▲ **〔慕容垂らは敕勒を制圧〕** 戊寅（19日）、燕主の雋は撫軍將軍の垂、中軍將軍の虔、護軍將軍の平熙を遣わして歩騎八萬を帥いて敕勒（鉄勒、チュルク、トルコ系）を塞北に攻め、大いに之を破り、俘斬は十餘萬、馬十三萬匹を、牛羊億萬頭を獲る。

▲ 匈奴單于の賀頼頭（匈奴の一種）は部落三萬五千口を帥いて燕に降り、燕人は之を代郡の平舒城に處く。

【苻堅は遂に暴君苻生を誅殺して立つ】

前秦 **〔苻生は魚遵を誅殺、牛夷は自殺〕** 秦主の生は夢に大魚が蒲（苻氏は元は蒲氏なり、魚が蒲を食すと）を食すをみ、又た長安の謠に曰く、

「東海の大魚は化して龍と為り、男は皆な王と為り女は公と為る。」

生は乃ち太師、録尚書事、廣寧公の魚遵を誅し、其の七子、十孫を并せる。金紫光祿大夫の牛夷は禍いを懼れ、荊州（秦は豊陽川に治す）と為るを求める。生は許さず、以て中軍將軍と為し、引見し、之に調いて曰く、

「牛の性は遲重たり、善く轅輓（牛車の長柄とくびき）を持つ。驥足（駿足）無しと雖も、動もすれば百石を負う。」

夷は曰く、

「大車に服すと雖も、未だ峻壁を経ず（6-170p）。願わくは重載を試みんことを、乃ち勲績を知らん。」

生は笑いて曰く、

「何の其れ快なる也、公は載せること輕きを嫌とする乎？朕は將に魚公の爵位を以て公を處かん。」

夷は懼れ、歸りて而して自殺す。

前秦 **〔苻生の殘虐は極まる、一日を保つは十年を渡る如し〕** 生は飲酒して晝夜無く、或いは連月出でず。奏事は省みず、往往にして寢落（統は寢格に作るべしと、奏上した事を放置）、或いは醉中に事を決す。左右は因りて以て奸を為し、賞罰は准（基準）無し。或いは申酉（夕方）に至りて乃ち出でて朝を視、醉に乗じて殺戮する所多し。自ら眇目（すがめ）なるを以て、「殘、缺、偏、只、少、無、不具」之類を言うを諱み、誤まりて犯し而して死する者は、勝げて數える可からず。好んで生きた牛、羊、驢、馬を剥ぎ、雞、豚、鵝、鴨を燂し（湯に浸して毛をむしり取る）、之を殿前に縦ち、數十は群を為す。或いは人の面皮を剥ぎ、之をして歌舞をせ使め、臨み觀て以て樂しみと為す。嘗て左右に問いて曰く、

「吾は天下に臨みしより、汝は外間に何の聞く所あるや？」

或は對えて曰く、

「聖明は世を宰し、賞罰は明當なり、天下は唯だ太平を歌う。」

怒りて曰く、

「汝は我に媚びる也！」

引き出して之を斬る。它日又た問い、或は對えて曰く、

「陛下の刑罰は微かに過ぎたり。」

又た怒りて曰く、

「汝は我を謗る也！」

亦た之を斬る。勳舊親戚は、之を誅して殆んど盡き、群臣は一日を保つを得ること、十年を度るが如し。

前秦 **〔苻堅は王猛に出会い驚喜す〕** 東海王の**堅**は、素より時譽有り、故の姚襄の參軍の**薛贊**、**權翼**と善し。**贊**、**翼**は密かに**堅**に説いて曰く、

「主上は猜忍暴虐にして、中外は離心し、方に今は宜しく秦の祀を主^{つかさど}る者は、**殿下**に非ず而して誰あるや！願はくは早く計を為し、它姓に之を得使むる勿かれ！」

堅は以て尚書の**呂婆樓**に問い、**婆樓**は曰く、

「僕は、刀鐙上（將に殺されんとすの意味）の人なる耳、以て大事を辦ずるに足らず。僕の裡舎に**王猛**なる者有り、其の人の謀略は不世出なり、**殿下**は宜しく請い而して之を咨るべし。」

堅は**婆樓**に因りて以て**猛**を招き、一見して舊友の如く、語りて時事に及び、**堅**は大いに悦び、自ら**劉玄德**之**諸葛孔明**に遇う（65 卷漢獻帝建安 12 年にあり）の如きと謂う也。

前秦 **〔苻堅は遂に立ちて苻生を殺す〕** **六月**、太史令の**康權**は秦主の**生**に言つて曰く、

「昨夜は三月並びて出で、孛星は太微に入り、東井に連なり、去月の上旬より、沉陰（曇る）するに雨ふらず、以て今に至り、將に下人の上を謀るの之禍い有らんとす。」

生は怒り、以て妖言と為し、之を撲殺す。特進、領御史中丞の**梁平老**等は**堅**に謂つて曰く、

「主上は德を失い、上下は嗷嗷（衆口が憂う様）として、人は異志を懷き、燕、晉の二方は、隙を伺いて而して動かんとす、恐らくは禍い發する之日は、家國は俱に亡びん。此れは**殿下**之事也、宜しく早く之を圖るべし！」

堅は心に之を然りとし、**生**が**趙勇**（矯捷勇猛）なるを畏れ、未だ敢えて發せず。**生**は夜侍婢に對して言つて曰く、

「**阿法**兄弟も亦た信ずる可からず、明（明日）には當に之を除かん。」

婢は以て**堅**及び**堅**の兄の清河王の**法**に告げる。**法**は**梁平老**及び特進光祿大夫の**彊汪**と與に、(6-171p) 壯士數百を帥いて潜かに雲龍門（長安宮の正南門）に入り、**堅**は**呂婆樓**と與に磨下の三百人を帥いて鼓噪して繼いで進み、宿衛の將士は皆な仗を捨てて**堅**に歸す。**生**は猶ほ酔いて寐ね、**堅**の兵は至り、**生**は驚いて左右に問いて曰く、

「此の輩は何人や？」

左右は曰く：

「賊也！」

生は曰く、

「何ぞ之を拜せざる！」

堅の兵は皆な笑う。生は又大言す、

「何ぞ速かに拜せざるや、拜せざる者は之を斬らん！」

堅の兵は生（年は23）を引いて別室に置き、廢して越王と為し。尋いで之を殺し、謚して厲王と曰う。

前秦 **〔苻堅は遂に即位す〕** 堅は位を以て法に譲り、法は曰く、

「汝は嫡嗣（堅の母の苟氏は雄の元妃なり）なり、且つ賢なり、宜しく立つべし。」

堅は曰く、

「兄は年長なり、宜しく立つべし。」

堅の母の苟氏は泣いて群臣に謂って曰く、

「社稷は重き事、小兒は自ら不能なるを知る。它日悔い有れば、失は諸君に在り。」

群臣は皆な頓首して堅の立つを請う。堅（字は永固、苻雄の子）は乃ち皇帝之號を去り、大秦天王と稱して、太極殿に於いて即位し、生の幸臣の中書監の董榮、左僕射の趙韶等二十餘人を誅す。大赦して、改元して永興とす。父の雄を追尊して文桓皇帝と為し、母の苟氏を皇太后と為し、妃の苟氏を皇后と為し、世子の宏を皇太子と為す、清河王の法を以て都督中外諸軍事、丞相、錄尚書事、東海公と為し、諸王は皆な降爵して公と為す。從祖の右光祿大夫、永安公の侯を以て太尉と為し、晉公の柳を車騎大將軍、尚書令と為す。弟の融を封じて陽平公と為し、雙を河南公と為し、子の丕を長樂公と為し、暉を平原公と為し、熙を廣平公と為し、睿を巨鹿公と為す。漢陽の李威を以て左僕射と為し、梁平老を右僕射と為し、彊汪を領軍將軍と為し、呂婆樓を司隸校尉と為し、王猛を中書侍郎と為す。

前秦 **〔弟の苻融の才能と苻丕〕** 融は文學を好み、明辯は人を過ぎ、耳に聞いて則ち誦し、目を過ぎて忘れず、力は百夫に敵い、善く騎射撃刺し、少きより令譽有り。堅は之を愛重すること、常に與に國事を共議す。融は内外に經綜し、刑政は修明、才を薦め滯を揚げ、補いて益すること弘く多し。丕も亦た文武の才幹有り、但だ民を治めて獄を斷じ、皆な融に亞す（次ぐ）。

前秦 **〔李威は王猛を高く評価〕** 威は、苟太后之姑の子也、素より魏王の雄（苻堅の父）と友善す。生は屢々堅を殺さんと欲し、威が營救するに頼りて免かるを得る。威は苟太后の幸を得て、堅は之に事えること父の如し。威は王猛之賢を知り、常に堅に勸めて以て國事を之に任せしむ、堅は猛に謂って曰く、

「李公は君を知り、猶ほ鮑叔牙之管仲を知るごとき也。」

猛は以て之に兄事す。

▲燕主の雋は段龕を殺し、其の徒三千餘人を坑す（生き埋め）。

■秋，七月，秦の大將軍の冀州牧の張平は遣使して降を請い、拜して并州刺史とす。

■八月，丁未（19日），皇后何氏を立てる。后は、故の散騎侍郎の廬江の何淮之女也。禮は鹹康（成帝咸安二年に皇后を立てるに六禮を備えて迎える、95卷）の如く而して賀せず。

前秦 秦王の堅は權翼を以て給事黃門侍郎と為し、薛贊を中書侍郎と為し、王猛と並びて機密を掌らしむ。

（6-172p）九月，太師の魚遵等の官を追復して、禮を以て改葬し、子孫の存する者は皆な才に隨いて擢敘す。

前秦 **〔張平は秦燕の間に割拠〕** 張平（石氏の敗北後、張平は秦燕に両属し、獨立を図る）は新興、雁門、西河、太原、上黨、上郡之地に據り、壁壘は三百餘、夷、夏の十餘萬戸は、拜して征鎮を置き、燕、秦と敵國と為らんと欲す。冬，十月，平は秦の境を寇略し、秦王の堅は晉公の柳を以て都督並、冀州諸軍事とし、并州牧を加え、蒲阪に鎮して以て之を御がしむ。

▲〔前燕は鄴に遷都〕十一月，癸酉（17日），燕主の**雋**は薊より徙りて鄴に都す。

前秦〔苻堅の兄法を誅殺〕秦の太后の**苟氏**は宣明台に遊び，東海公の**法**之第門に車馬の輻湊するを見，終に秦王の**堅**に利あらずを恐れ，乃ち**李威**と與に謀り，**法**に死を賜わる。**堅**は**法**と東堂に訣し，慟哭して血を歐く。謚して**獻哀公**と曰い，其の子の**陽**を封じて東海公と為し，**敷**を清河公と為す。

▲十二月，乙巳（19日），燕主の**雋**は鄴の宮に入り，大赦す。復た銅雀台（魏の太祖曹操が魏王に昇爵した時に鄴、現在の河北省邯鄲市臨漳県三台村に造営した宮殿を改修か。高さ10丈33.3m、3基の宮殿が連結）を作る。

■太常の王**彪之**を以て左僕射と為す。

前秦〔秦王苻堅の政治の名声〕秦王の**堅**は行きて尚書に至り，文案の治まらざるを以て，左丞の**程卓**の官を免じ，以て**王猛**に之を代わらしむ。**堅**は異才を擧げ，廢職を修め，農桑を課し，困窮を恤み，百神に禮し，學校を立て，節義を旌し，絶世を繼ぐ。秦の民は大いに悦ぶ。

孝宗穆皇帝中之下昇平二年（戊午，358年）

■春，正月，司徒の**昱**は稽首して政を歸さんとす，帝は許さず。

【秦の張平の討伐、燕の馮騫の討伐】

前秦▲初め**馮騫**は、既に上黨を以て來たりて降り（永和11年に見える），又た**張平**に付き，又た自ら燕に歸し，既に而して復た燕に叛す。二月，燕の司徒の上庸王の**評**は之を討ち，克たず。

前秦〔苻堅は張平を伐ち、自陣營に組み込む〕秦王の**堅**は自ら將して**張平**を討ち，**鄧羌**を以て前鋒督護と為し，騎五千を帥いて，汾上（汾水のほとり）に軍せしむ。**平**は養子の**蚝**をして之を御が使む。**蚝**は多力にして趨捷，能く牛を曳いて卻走す。城は高下と無く，皆な超越す可し。**羌**と相い持つこと旬餘，能く相い勝つ莫し。三月，**堅**は銅壁（黄河と汾水の間に銅川あり、民は壘壁を築いて守るを銅壁という。山西省舊汾州府内にあり）に至り，**平**は衆を盡くして出で戦い，**蚝**は單馬にして大呼し，秦の陳に出入する者四、五たび。**堅**は人を募りて之を生致せんとす，鷹揚將軍の**呂光**は**蚝**を刺して，之に中たり，**鄧羌**は**蚝**を擒として以て獻じ，**平**の衆は大いに潰ゆ。**平**は懼れ，降を請う。**堅**は**平**を拜して右將軍，**蚝**を以て虎賁中郎將と為す。**蚝**は，本姓は弓，上黨の人也，**堅**は寵待すること甚だ厚く，常に左右に置く。秦人は、
「**鄧羌**、**張蚝**は皆な萬人の敵なり。」

と稱す。**光**は，婆樓之子也。**堅**は**張平**の部民三千餘戸を長安に徙す。

▲〔慕輿根の救援で燕は上黨の馮騫を破る〕甲戌（20日），燕主の**雋**は領軍將軍の**慕輿根**を遣わして，兵を將いて司徒の**評**を助けて**馮騫**を攻めしむ。**根**は急に之を攻めんと欲し，**評**は曰く、
「**騫**の壁は堅く，之を緩くするに如かず。」

根は曰く、

「然らず。(6-173p)公は城下に至ること月を経て，未だ嘗て鋒を交えず。賊は國家の力は此に止まると謂い，遂に相い固く結び，萬一を冀幸す。今**根**の兵は初めて至り，形勢は方に振い，賊衆は恐懼し，皆な離心有り，計慮は未だ定まらず，従いて而して之を攻めれば，克たざる者無し。」

遂に急に之を攻める。**騫**は其の黨と果たして相い猜忌し，**騫**は野王に奔りて**呂護**に依り，其の黨は盡く降る。

前秦夏，四月，秦王の**堅**は雍に如き，五時を祠る。六月，河東に如き，后土を祀る。

■〔豫州刺史の後任に桓雲は不適任、桓溫への警戒〕秋，八月，豫州刺史の**謝奕**は卒す。奕は，安之兄也。

司徒の昱は建武將軍の桓雲を以て之に代わらしめんとす。雲は、溫之弟也。僕射の王彪之に訪う。彪之は曰く、

「雲は才ならざるに非ず、然るに溫は上流に居し、已に天下之半ばを割き、其の弟は復た西藩（東晋に豫州は江西に鎮し、建康は江東に在り、故に豫州を西藩と呼ぶ）に處る。兵權が一門に萃まるは、根を深くし蒂を固くする之宜しきに非ず。人才は豫め量る可きに非ず、但だ當に殿下と異を作さざる者をせ令むる耳。」

昱は之に頷いて曰く、

「君の言は是也。」

壬申（21日）、吳興太守の謝萬を以て西中郎將、監司、豫、冀、並びに四州（全て僑郡）諸軍事、豫州刺史と為す。

■ 【王羲之は謝萬を激励】 王羲之は桓溫に箋を與えて曰く、

「謝萬は才流經通（才能通達）し、之をして廊廟（朝務をとる廟堂）に處ら使むるは、固に是れ後來（その後）之秀なり。今之を以て荒餘（戦乱の後の荒廢した僑郡の民）を俯順せしむるは、近くは是れ才に違え務を易える（適材適所でない）矣。」

又た萬に書を遣わして曰く、

「君が邁往（邁進）して（細務を）屑しとせざる之韻（風韻、氣象）を以て、而して俯して群碎（晋書王羲之傳には羣辟に作る、微辟せられる衆人）に同じくするは、誠に意を為し難からん也。然るに所謂通識は、正に當に事に隨いて行藏するべき耳。願はくは君は毎に士卒之下者と與に甘苦を同じくするべし、則ち善を盡くすべき矣。」萬は能く用いず。

■ 徐、兗二州刺史の荀羨は疾有り、御史中丞の郗曇を以て羨の軍司と為す。曇は、鑒之子也。

前秦 【苻堅、干害も災害とならず】 九月，庚辰（59日?），秦王の堅は長安に還り，太尉の侯（永安公苻侯）を以て尚書令を守らしむ。是に於いて秦は大いに早す。堅は膳を減らし樂を徹し，后妃以下に命じて悉く羅紩（立派な衣服）を去らしむ。山澤之利を開き，公私之を共にし，兵を息めて民を養う，早は災と為らず。

前秦 【軍師王猛の寵遇は窮まり、樊世誅殺】 王猛は日々に親幸せられて事を用い，宗親勳舊は多く之を疾む。特進、姑臧侯の樊世は，本は氏豪にして，秦主の健を佐（補佐）して關中を定め，猛に謂って曰く、「吾が輩は之を耕やし，君が之を食らう邪？」

猛は曰く、

「徒らに君をして之を耕や使むるに非ず，又た將に君をして之を炊が使めんとす！」

世は大いに怒りて曰く、

「要らず當に汝の頭を長安の城門に懸けん，然らずんば，吾は世に處らず！」

猛は以て堅に白す。堅は曰く、

「必ず此の老氏を殺さん，然る後に百寮は肅なる可し。」

會々世は入りて事を言い，猛と堅の前にて爭論し，世は起ちて猛を撃たんと欲す。堅は怒りて，之を斬る。

是に於いて群臣は猛を見て皆な屏息（氣を屏めて息せず）す。（6-174p）

【前燕慕容皝の秦晋經營の企み】

▲ 【趙の旧臣自立の動きと前燕の討伐】 趙之亡びる也，其の將の張平、李歷、高昌は皆な遣使して燕に降り，已に而して晋に降り，又た秦に降り，各々爵位を受け，中立して以て自ら固めんと欲す。（永和七年に李歷・高昌が晋に降り張平が秦に降る。八年に李歷、高昌は秦にも降り、この年三人とも燕に降る。苻生死後張平は晋に降る）燕主の皝

は司徒の評をして張平を并州に討たしめ、司空の陽騫をして高昌を東燕に討たしめ、樂安王の臧をして李歷を濮に討たしむ。陽騫は昌の別將を黎陽（河南省河北道浚県、現・鶴壁市浚県の東）に攻め、拔かず。歷は滎陽（河南省開封道滎澤県、現・鄭州市滎陽市）に奔り、其の衆は皆な降る。并州の壁壘の百餘は燕に降り、雋は右僕射の悦綰を以て并州刺史と為し以て之を撫さしむ。平の署する所の征西將軍の諸葛驥等は壁壘の百三十八を帥いて燕に降り、雋は皆な其の官爵を復す。平は衆三千を帥いて平陽（現・山西省臨汾市堯都区）に奔り、復た燕に降を請う。

■▲〔諸葛攸は燕の東郡を攻め、燕逆襲河南占領〕冬，十月，泰山太守の諸葛攸は燕の東郡を攻め、武陽（山東省濟寧道朝城県、現・聊城市莘県）に入り、燕主の雋は大司馬の恪を遣わして陽騫及び樂安王の臧之兵を統べて以て之を撃たしむ。攸は敗走し、泰山に還り、恪は遂に河を渡り、河南を略地し、分けて守宰を置く。

▲〔慕容雋は百五十万徴兵して秦晉を經營せんとす〕燕主の雋は秦、晉を經營（攻略）せんと欲し、十二月，州郡に令して見丁（現在の壯丁、成人男子）を校實（実数調査）し、戸は一丁を留め、餘は悉く發して兵と為し、歩卒をして一百五十萬に滿たしめ、來春を期して大いに洛陽に集めんと欲す。武邑の劉貴は上書して、極陳して、

「百姓は凋弊し、兵を發するは非法（法にこんな徴兵は無い）なり、必らず土崩之變致らん。」

雋は之を善しとし、乃ち更めて令して三五（十五）して兵を發し、其の期日を寬め、來冬を以て鄴に集まらしむ。

▲〔軍勢調達の使者で道路が混雑〕時に燕は調發すること繁數にして、官司は各々使者を遣わし、道路は旁午（縦横に入り乱れ）たり、郡縣は之に苦しむ。太尉、領中書監の封奕は請う、

「今より軍期の嚴急に非ざれば、遣使するを得ず、自餘の賦發は皆な成（丕）を州郡に責め、其の群司の遣わす所の彈督の先ず外に在る者は、一切攝め還すべし。」

雋は之に従う。

■■〔燕の泰山太守の賈堅の憤死〕燕の泰山太守の賈堅は山茌（前漢の茌県、山東省東臨道茌平県、現・聊城市茌平区）に屯し、荀羨は兵を引いて之を撃つ。堅の將する所の才に七百餘人、羨の兵は堅に十倍す。堅は將に出でて戦わんとし、諸將は皆な曰く、

「衆は少なし、固く守るに如かず。」

堅は曰く、

「固く守るは亦た能く免かれず、戦うに如かざる也。」

遂に出でて戦い、身は士卒に先んじ、羨の兵千餘人を殺し、復た還りて城に入る。羨は進みて之を攻め、

堅は歎じて曰く、（まず先んじて出兵して、出鼻を挫かんとするもなさず）

「吾は結髮より、功名を立てんと志し、而して毎に窮厄に値う、豈に命に非ず乎！與に其の屈辱に而して生きるより、節を守り而して死すに若かず。」

乃ち將士に謂って曰く、

「今危困し、計は設ける所無し、卿等は去る可し、吾は將に止まりて死せん。」

將士は皆な泣いて曰く、

「府君出でずんば、衆も亦た俱に死せん耳。」

乃ち堅を扶けて馬に上らしむ。堅は曰く、

「我が如し逃げんと欲すれば、必ず相い遣らざらん。今當に卿の曹の為に決鬥せん（6-175p）、若し勢い支える能わざれば、卿等は趣かに去る可し、復た我を顧みる勿かれ也！」

乃ち開門して直ちに出る。羨の兵は四集し、堅は馬を橋上に立て、左右に之を射て、皆な弦に應じ而して倒れる。羨の兵衆は多く、塹下より橋を斫り、堅の人馬は俱に陥ち、之を生きて擒とし、遂に山荏を抜く。羨は堅に謂って曰く、

「君の父、祖は世々晉の臣^た為り、奈何ぞ本に背きて降らざるや？」

堅は曰く、

「晉は自ら中華を棄てる、吾は叛くに非ざる也。民は既に主無く、強ければ則ち命を托す。既に已に人に事え、安んぞ節を改める可けんや！吾は束脩（師に従いて學に就き、便ち自ら立つに志しあるをいう。脩は脯、ほじし、干し肉、十脯を束。古は師に従うときは必ず束脩を以て禮と為す）して自ら立ち、趙を涉り燕を歴るとも、未だ嘗て志を易えず（賈堅が燕に降らざる事 98 卷永和七年にあり）、君は何ぞ匆匆として降れと相い謂う乎！」

羨は復た之を責め、堅は怒りて曰く、

「豎子、兒女として乃公（自ら称して乃公というのは羨を侮辱）を御す！」（兒女として御すは、兒女を駕御するが如し）

羨は怒り、執りて雨中に置き、數日にして、堅は憤惋し而して卒す。

■▲[慕容廆は泰山救援、山荏を奪回] 燕の青州刺史の慕容廆は司馬の悦明を遣わして泰山を救い、羨の兵は大敗し、燕は復た山荏を取る。燕主の皝は賈堅の子の活を以て任城太守と為す。

■[荀羨は病で郗曇に交代] 荀羨は疾篤く、征して還らしめ、郗曇^{ちたん}を以て北中郎將、都督徐、兗、青、冀、幽五州諸軍事、徐、兗二州刺史と為し、下邳に鎮ぜしむ。

▲[慕容垂の妻段氏は誣告され、皝と益々離間す] 燕の吳王の垂は段末杯の女を娶り、子の令、寶を生む。段氏は才は高く性は烈にして、自ら以て貴姓（段は慕容に匹敵する家柄・国という自負）とし、可足渾後に事えて尊せず、可足渾氏は之を銜む。燕主の皝は素より垂に^{こころよか}快^{あつた}らず（前卷永和十年に見える）、中常侍の涅皓は因りて旨を希い

「段氏及び吳國の典書令（晉の制で王国に典書・典祇・学官令を置く、燕は倣う）の遼東の高弼は巫蠱を為す」と告げて、以て垂を連汚（連座）せんと欲す。皝は段氏及び弼を収め、大長秋、延尉に下して考驗せしめ、段氏及び弼の志氣は確然として、終に^{とう}撓（曲げる）辭無し。掠治（拷問尋問）せらるること日々急なり、垂は之を愍み、私に人をして段氏に謂って曰わ使む、

「人生は會々當に一たび死すべし、何の楚毒（激しく痛む）に堪えること此くの如し！引服（自ら引いて誣いて罪に服する）するに若かず。」

段氏は歎じて曰く、

「吾は豈に死を^お愛しむ者なる耶！若し自ら誣いるに惡逆を以てすれば、上は祖宗を辱め、下は王に^{わずらわ}累す、固より為さざる也！」

辯答は益々明らかなり、故に垂は禍いを免ずるを得、而して段氏は竟に獄中に死す。垂を出して平州刺史と為し、遼東に鎮ぜしむ。垂は段氏の女弟を以て繼室と為す。足渾氏は之を黜け、其の妹の長安君を以て垂に妻あわす。垂は悦ばず、是に由り益々之を惡む。

匈奴 匈奴の劉閼頭の部落は多く叛し、懼れ而して東に走り、冰に乗りて河を渡り、半ば渡り而して冰は解け、後の衆は盡く劉悉勿祈に歸し、閼頭は代に奔る。悉勿祈は、務桓（卒するは前卷永和 12 年にあり）之子也。

（6-176p）

孝宗穆皇帝中之下昇平三年（己未、359年）

▲**春，二月**，燕主の**雋**は子の**泓**を立てて**濟北王**と為し，**沖**を**中山王**と為す。

▲■燕人は**段勤**（前卷永和八年に燕の降る）を殺し，**勤**の弟の**思**は來奔す。

▲**〔燕の前太子と現太子暉の人物評〕**燕主の**雋**は群臣と蒲池に宴し，語は周の太子の**晉**（周の靈王の太子で叡にして早く卒し、弟の景王が崩じて後に周は乱れる）に及び，**潛然**として流涕して曰く、

「才子は得難し。**景先**（燕の太子暉の字、356年卒）之亡びしより、吾は鬢髪は中ば白くなる。卿等は謂うに**景先**は何如？」

司徒の左長史の**李續**は對えて曰く、

「**獻懷太子**（慕容暉の諡）之東宮に在るや、臣は中庶子（太子の侍中役）為り、**太子**の志業は、敢えて之を知らず！**太子**の大徳は八有り。至孝なるは一也、聰敏なるは二也、沈毅なるは三也、諛を疾み直を喜ぶは四也、好學を好むは五也、多藝は六也、謙恭なるは七也、施を好むは八也。」

雋は曰く、

「卿が之を譽めるは過ぎたりと雖も、然れども此の兒在れば、吾は死しても憂い無し矣。**景茂**（現太子の慕容暉）は何如や？」

時に太子の**暉**は側に待す，**續**は曰く、

「**皇太子**は天資は**岐嶷**（幼少より優れる）なり、八徳は已に聞こえりと雖も、然るに二闕は未だ補わず、游畋を好み而して絲竹を楽しむ、此れ其の損と為る所以也。」

雋は顧みて**暉**に謂って曰く、

「**伯陽**（**李續**の字）之言は、藥石之恵み也、汝は宜しく之を誡めよ！」

暉は甚だ不平なり。

▲**〔趙主の虎の屍が祟る〕****雋**は夢に趙主の**虎**が其の臂を噛むをみて、乃ち**虎**の墓を發き、屍を求めるも獲ず、購うに百金を以てす。鄴の女子の**李菟**は知りて而して之を告げ、屍を東明觀の下に得、僵れて而して腐らず。**雋**は躡み而して之を罵りて曰く、

「死んだ胡は、何ぞ敢て生きた天子を怖れさすや！」

其の殘暴之罪を數えあげて而して之を鞭ち、漳水に投げる、屍は橋柱に倚りて流れず。秦の燕を滅すに及びて、**王猛**は之が為に**李菟**を誅し、收めて而して之を葬す。

前秦**〔前秦の高離の反乱鎮圧〕**秦の平羌護軍の**高離**は略陽に據りて叛き、永安の威公の**侯**は之を討ち、未だ克たず而して卒す。**夏，四月**，驍騎將軍の**鄧羌**、秦州刺史の**啖鐵**は討ちて之を平らぐ。

匈奴匈奴の**劉悉勿祈**は卒し、弟の**衛辰**は其の子を殺して而して之に代る。

前秦**五月**，秦王の堅は河東に如く。**六月**，大赦して、改元して甘露とす。

前涼**〔張瓘は反して宋混に討たれる〕**涼州牧の**張瓘**は、猜忌して苛虐なり、専ら愛憎を以て賞罰を為す。郎中の**殷郃**は之を諫める。**瓘**は曰く、

「虎は生まれて三日、自ら能く肉を食ひ、人の教えるを須たざる也。」

是に由りて人情は附かず。輔國將軍の**宋混**は、性は忠鯁（真心あり剛直）、**瓘**は之を憚れ、**混**及び弟の**澄**を殺し、因りて涼王の**玄靚**を廢し而して之に代わらんと欲し、數萬を徵兵し、姑臧に集める。**混**は之を知り、**澄**と壯士の**楊和**等四十餘騎を帥いて奄ち南城に入り、諸營に宣告して曰く、

「**張瓘**は逆を謀り、太后令を被りて之を誅せんとす。」

俄に而して衆は二千に至る。**瓘**は衆を帥いて出でて戦ひ、**混**は撃ちて之を破る。**瓘**の麾下の**玄臚**は**混**を刺

すも、甲を穿つ能わず、**混**は之を擒とし、**璿**の衆は悉く降る。**璿**は弟の**琚**と皆な自殺し、**混**は其の宗族を夷ぐ。(6-177p) **玄靚**は**混**を以て使持節、都督中外諸軍事、驃騎大將軍、酒泉郡侯と為し、**璿**に代わりて政を輔けしむ。**混**は乃ち**玄靚**に請いて涼王之號(張祚初めて涼王と称するは99 卷永和十年にあり、張璿が玄靚を推して涼王となすは前卷11年にあり)を去らしめ、復た涼州牧を稱せしむ。**混**は**玄臚**に謂つて曰く、

「卿は我を刺し、幸いにも而して傷せず、今我は輔政す、卿は其れ懼れる乎？」

臚は曰く、

「**臚**は**璿**の恩を受け、唯だ節下を刺して深からずを恨む耳、竊かに懼れる所無し！」

混は之を義として、任じて心膂と為す。

▲**高昌**は燕を拒む能わず、**秋**、**七月**、白馬より滎陽に奔る。

前秦 **〔王猛は一罪百戒、彊德を誅殺、苻堅は法有るを知る〕** 秦王の**堅**は河東より還り、驃騎將軍の**鄧羌**を以て御史中丞と為す。**八月**、咸陽内史の**王猛**を以て侍中、中書令と為し、京兆尹を領せしむ。特進、光祿大夫の**彊德**は、太后(彊太后は苻健の皇后)之弟也、酒を酗(酒に酔つて狂う)し、豪横にして、人の財貨、子女を掠め、百姓の患と為る。**猛**は車を下りて**德**を收め、奏して未だ報の及ばずして、已に屍を市に陳し、**堅**は使いを馳せて之を赦さんとするも、及ばず。**鄧羌**と志を同じくして、惡を疾み糾案し、顧みて忌む所無く、數旬之間に、權豪、貴戚の、殺戮、刑免される者は二十餘人、朝廷は震慄し、奸猾は氣を屏け、路には遺ちたるを拾わず。**堅**は歎じて曰く、
「吾は始めて今天下之法有るを知る也！」

【謝萬は燕に破れ、河南の領地を失う】

■ **〔諸葛攸は燕を討ち慕容恪逆襲〕** 泰山太守の**諸葛攸**は水陸二萬を將して燕を撃ち、石門より入り、河渚に屯す。燕の上庸王の**評**、長樂太守の**傅顔**は步騎五萬を帥いて**攸**と東阿に戦い、**攸**の兵は大いに敗れる。

■ **〔謝安の弟萬に対する細かい配慮、燕は許昌など占領〕** **冬**、**十月**、詔して**謝萬**を下蔡に軍し、**郗曇**を高平に軍して以て燕を撃たしむ。**萬**は矜豪にして物に傲り、但だ嘯詠(歌唱)を以て自ら高しとして、未だ嘗て衆を撫でず。兄の**安**は深く之を憂え、**萬**に謂つて曰く、(謝安は性は遅緩なるも、弟や晉室に対しては緻密に配慮できて、桓溫の変や苻堅の侵略を防ぐ)

「汝は元帥みづか為り、宜しく數々諸將を接對し以て其の心を悦ばすべし、豈に傲誕(生まれつき剛直)なること此くの如くし而して能く事を濟す有らん也！」

萬は乃ち諸將を召集して、一つも言う所無し、直だ如意(鉄の如意棒)を以て四坐を指して云わく、

「諸將は皆な勁卒(強い兵、將たる者に兵卒というのは侮辱)なり」。

諸將は益々之を恨む。**安**は**萬**が免かれざるを慮り、乃ち隊帥より以下、みづか親ら造りて、厚く相い親托せざる無し。既に而して**萬**は衆を帥いて渦、潁(の二水の間)に入り以て洛陽を援け、**郗曇**は病を以て退きて彭城に屯す。**萬**は以為らく燕兵は大いに盛んなり、故に**曇**は退くとし、即ち兵を引いて還り、衆は遂に驚きて潰える。**萬**は狼狽して單り歸り、軍士は其の敗に因りて而して之を圖らんと欲し、**安**の故を以て而して止む。既に至り、詔して**萬**を廢して庶人と為し、**曇**の號を建武將軍に降す。是に於いて許昌、潁川、譙、沛の諸城は相い次いで皆な燕に没す。

前秦 秦王の**堅**は**王猛**を以て吏部尚書と為し、尋いで太子の詹事に遷す。**十一月**、左僕射と為し、(6-178p) 餘の官は故の如し。

■ **十二月**、武陵王の**晞**の子の**〔王逢〕**を封じて梁王と為す。

■大旱す。

▲「慕容雋は病に倒れ、恪に後を託す」 辛酉（17日）、燕主の雋は疾にて寝ね、大司馬の太原王の恪に謂って曰く、

「吾が病いは必らず済すくわれず。今二方（秦と晉）は未だ平らがず、景茂（太子慕容暉）は冲幼にして、國家は多難なり、吾は宋の宣公（子の與夷に代えて弟穆公を立てる）に效ならいて、社稷を以て汝に屬せんと欲すが、何如か？」恪は曰く、

「太子は幼なきと雖も、殘に勝ち治を致す之主也。臣は實に何人か、敢えて正統を干おかさんや！」雋は怒りて曰く、

「兄弟之間は、豈に虚飾する邪！」

恪は曰く、

「陛下は若し臣が能く天下之任を荷なう者と以てせば、豈に少主を輔ける能わずとする乎！」

雋は喜んで曰く、

「汝は能く周公た為らば、吾は復た何をか憂えんや！李續は清方にして忠亮なり、汝は善く之を遇さん。」吳王の垂を召して（遼東より）鄴に還らしむ。

【王猛に権限集中】

前秦 「王猛は年に五回昇進」 秦王の堅は王猛を以て輔國將軍、司隸校尉と為し、中に居りて宿衛せしめ、僕射、詹事、侍中、中書令、領選は故の如し。猛は上疏して辭讓し、因りて散騎常侍の陽平公の融、光祿（大夫）、散騎（常侍）の西河の任群、處士の京兆の朱彤を薦めて自らに代わらしむ。堅は許さず、而して融を以て侍中、中書監、左僕射と為し、任群を光祿大夫と為して、太子の家令を領せしむ。朱彤（朱彤に作るべし）を尚書侍郎と為し、太子庶子を領せしむ。猛は時に年は三十六にして、歲の中に五たび遷り、權は内外を傾ける。人に之を毀る者有れば、堅は輒ち之を罪とし、是に於いて群臣は敢えて復た言う莫し。左僕射の李威を以て護軍を領せしめ、右僕射の梁平老を使持節、都督北垂諸軍事、鎮北大將軍と為し、朔方之西に戍せしむ。丞相の司馬の賈雍をして雲中護軍と為し、雲中之南に戍せしむ。

▲燕は征する所の郡國の兵を悉く鄴城に集める。（去年徴兵した兵が集る）

令和3年2月10日 翻訳開始 12264 文字

令和3年2月17日 翻訳終了 24547 文字、現代地名年表対応

令和3年12月9日 書下し終了 25324 文字